

Phass forward

by ホーマー・アッシュバーン

ファスは行く。

我々が言おうとしていることは、決して冷笑などしないでいただきたいのだが、本格ホームハイファイファンの体験が車内でも本当に可能であるということだ。

70年代のTVシリーズ「600万ドルの男」の前置きで、俳優リチャード・アンダーソンが、宇宙飛行士スティーブ・オースティンが外科手術を受けるイメージを、繰り返しながら言っているのが聞こえる、“我々は、彼を造り直すことができる、我々にはテクノロジーがある。”と。

ともかくも、それは、科学の不思議さがファスのREアンプであり、トゥイーターやミッドバスやサブウーファーであるということ表現するのに相応しいフレーズである。

それらは、ホームハイファイファン体験への関わりを車の中にもたらしたテクノロジーである。



そんな馬鹿な！と、幾人かの人たちは、そう叫ぶかもしれない、ほとんどの部分において、それは不可能だと考えることのほうが正しいだろう。

結局のところ、走行中の車はロイヤルアルバートホールであることは決してないし、また、そこはあなたたち住居のリスニングルームでもない。道路を走る車は静かな現場ではないのだ。

けれども、ファスの設立者 Kurokochi はエンジニアでもあり、自らも認めるオーディオファイルであるのだが、そのようなネガティブな人に従属することもなく、彼の専門知識と音楽にたいする情熱を結合させたのである。そして、多くの人たちが世界最上のカーオーディオと呼ぶファスの設立に道を切り開いたのだ。

世界中には、自らを世界最高のカーオーディオであると呼ぶブランドやメーカーで満たされている、実際これらは強い主張ではある。しかし、ファスのウェブサイトから無編集で、彼の言葉を借りれば、“長い間、音にこだわらない高価格のアンプが存在してきた、大抵それらは、きらびやかな化粧を施し、外観で消費者の関心を引こうとしている。また、それらが行っている全てと言え、高音質再生とは無関係なアウトプットパワーの増大だけなのだ。”

“リスナーのほとんどは、似たような大量生産の S.E.P.P.アンプから発せられる似たような音を聴くのに飽きている。オーディオアンプの音はもっと楽しくて、興味深くあるべきだ、と我々は信じている。”

他の高価格アンプと彼の創造物との大きな違いは、ファス RE は最初からハイエンドアンプとして開発されたのではないということにある、それらは、結果としてハイエンドプロダクツになったのだ。なぜならば、ハイクオリティー製品を作る過程において、当然高価なハイクオリティーな材料を使わなくてはならなかったからだ。

高音質サウンドの追及が、結果として高いプライスタグの製品となっただけなのである。

ファス・スタイルの、高音質サウンドは一体いくら位するのか？

自分自身のトヨタエスティマにそれらを装備している音楽評論家（クアラルンプール）によれば、およそ、中級ファミリーサルーンくらいだと。

ただ、それは RE2 アンプ、RE100M モノラルアンプ、ファス 6.5 インチミッドバス、AT28EVO.トウィーターそれに SW1025 サブウーファーからなるベーシックパッケージだけなのだ。

それは、カスタムインストーラーである「テフニチ・オーディオ」のカスタマイズド・チューニング費用やパワーコンディショナー代金などは含んでいない。それらがなされた、最終トータルは「ヒュンダイ・アクセント」か「プロトン・ワジャ」なみの金額か。

これらがすべて行われたとすれば、もはや、豊かなアコースティックベースサウンドの中に身を置いた、4つのタイヤの上の天国を手に入れることができる？

ファスが見事に鳴っているこのエステイマの中で、最初に受ける印象は、ブラウプンクトのヘッドユニットから送り出される愛くるしい小曲の助けもあってか、いかに全てが生き生きしているか、というものであった。

この曲のポップシンガー「シール」の声は、彼のよりエレクトリックなポップ/ダンス音楽の録音に対比して、ウォームであり、落ち着いたものであった。ファス・システムは、こじんまりして落ち着けるジャズクラブにいるように感じさせる。



アコースティックギターをつま弾きやブラッキング、フェザーライトパーカッションやドラムスト、エレクトリック・バスギターの対極にある上品な響きが、こうあるべきだと期待したとおりに現れて来る。たとえ、目を閉じたとしても容易に想像できる非常に深い密接感を存在させながら。

ただ無いものは、シガレットの煙と、他の聴衆、ビアグラスのカチンカチンと鳴る音。

ファスのパッケージ、「テフニチ」が“ソウル・アンサンブル”と名付けたそれは、女性ボーカルが最高、また、信じるか信じないかは別として、中国古典楽器も非常に良かった。

特に、ライブ環境の中や、最高級ハイエンドホームハイファイシステムの快適さの中で発見できる、あのレベルの密接感やふれ合い感を現すこのシステムはジャズミュージックを得意にしていた。

それは、車の中のオーディオファイルサウンドである。

しかし、チョット待ってくれ、私の言葉よりも、ここは再度 Kurokochi さんに登場願おう、“今まで、ハイエンドアンプやスピーカーの基準は高出力、多機能、派手な化粧やゴージャ

ヤスなパッケージにあった。それらは、車のインテリアにおけるデコレーションとしての運命を背負って開発されたのだ。だけど、まだまだデコレーションじゃないカーオーディオ製品で真剣に音楽を聴きたいと思っている人たちは存在しているんじゃないだろうか。

我々は、音楽だけを再生するシンプルなモノを、芸術領域の音楽再生を愛するエンスージヤストに提供していきたい。”

ありがとう！Kurokochi とテクノロジーよ。今まさに、それが可能ですよ（！？）600万ドルもかかるわけじゃないんだから。